



文化庁 島田主任文化財調査官を囲む会開催

平成27年10月22日（木）、熊川児童館において文化庁文化財部参事官付 伝統的建造物群部門の島田敏男主任文化財調査官を囲む会が開催されました。小浜西組からは11名（市職員2名・顧問1名含む）、熊川宿からは27名（町職員4名含む）、総勢40名の参加で行われました。

19時30分から始まった会は、熊川宿まちづくり特別委員会の宮川直美副会長司会の元、進行されました。

まずは熊川宿の宮本哲男会長の挨拶、小浜西組から澤口会長の挨拶と続き、ともに近況と今後の展望・抱負を語り、島田氏の『文化財を巡る最近の動向』の話へと移りました。

島田氏は、まず、鯖街道が第1号の日本遺産に認定された背景を説明してくださいました。「京都へ食を届けたという事実だけでなく、そこに往来のあった証が今現在も町に、街道に、色濃く残っていること」が認定の要素だそうです。

また、20年間熊川宿に携わってきた過程で、「熊川宿は重伝建に選定されて、町並みが美しく明るくなっただけでなく、住んでいる町の人が明るくなった。そしてこの熊川宿の活動が、旧上中町の住民全体に良い影響を及ぼしている。それが何より嬉しい」と話されました。「小浜西組も熊川宿のように、町の人が元気になるような町づくりを目指してほしい」とエールを送ってくださいました。

そして「昨今の評論家は、町づくりは行政主導より住民主導で進めるものだと言われるが、行政の役割と住民の役割は根本的に違う。責任を持つのが行政、住民は行動力。



参加された皆さん

両方が動いて初めて町づくりが始まる。住民の為になることを自分たちが納得のいくように活動を進めていくべき」と意識づけをしてくださいました。

続いて、福井県教育庁生涯学習・文化財課 今出瑞穂文化財調査員から福井県の活動についてお話を頂きました。



島田敏男
主任文化財調査官

県の活動として、①嶺北に重伝建地区がないので、その選定のために動いていること
②日本遺産に県から2つの候補地を出したが、鯖街道が認定されたこと ③今年、県の教育委員会が放生祭の調査に入ったことが主なものであるとのことでした。又、福井県建築士会と教育委員会では、*ヘリテージマネージャーの育成を進めており、本人も勉強中であること等を挙げられ、県としても北陸新幹線開業をきっかけに新たな観光資源を発掘、調査、発展させようとしている様子があがりました。

盛りだくさんのお話のあと河合健一名誉会長の乾杯で懇親会に移り、日頃の活動について話し合いながら楽しく過ごさせていただきました。

最後に河合名誉会長が安心安全の町づくりを目標に活動したいと抱負を述べられ、岩本実会長代理の一本締めで2時間の囲む会はお開きとなりました。



懇親会の様子

*ヘリテージマネージャー：『ヘリテージ (Heritage)』は『遺産』、『マネージャー (Manager)』は『やりくりする者』という意味。養成講座では文化財的価値のある建造物等を保存しまちづくりに活かす方法、歴史的建造物の文化財的価値とその評価方法、歴史的建造物の修復と保全の手法などの修得を目指す。



拭き漆作品展を終えて

こうし だに みち ろう
糞谷道郎 (72歳・名田庄下在住)



「内田裕也じゃないけれど、ヤッタゼ、ベイビー！あー楽しかった」念願だった作品展を振り返って総括すると、この一言になります。

一般的に漆器は、他の製品に比べて高価で扱いが難しく、工芸的であるため敷居が高いイメージですが、私の作品「拭き漆」は日用^{じゅうき}什器です。作品展では木製品の暖かさや拭き漆の美しさ、自然な感じの素材感やその手触りも実感していただきましたので、拭き漆用品に興味を持って頂けたのではないかと私は満足しています。

作品展では拭き漆の扱いについて「食器洗い機に入れるのはご勘弁願ひ、水洗い（ぬるま湯なら最適）と洗い^{さら}晒しの木綿で軽く拭き取れば良い（ササッとではなく、一息止めてスーッと）」という風にお伝えしながら、多くの人に拭き漆の作品に触れていただけました。

実は、作品展の準備期間中に秋の長雨に祟られ、更には台風18号に見舞われ、泥田の中での稲刈りをする日が続き、私は大変疲れていたのも無事開催出来るか心配でした。

でも、いざ展示が始まるとそんな疲れは吹き飛びました。期間中には古い友人と再会しましたし、新しい人との出会いや語らいが楽しいものでした。語り部の杉崎さんと魚

安の大将と私が若狭高校で同級だった事、更に大将は私の家内の1年後輩で同じホームであった事が判明し、家内にとっても嬉しい再会の場となりました。

作品展開催前は、若狭塗りの本場小浜で展覧会を開く事が出来たら思い残す事は何も無いと思っていましたし、開催直前の疲れから、二度とするものかと思っていましたが、終わってみると「もう一度くらい展示会をやってもいいかな…」と野心的な考えが芽生え始めており、次の開催にむけて意気込んでいる昨今です。

これも町並み保存資料館に関わる市の担当者の方、献身的に対応して頂いた語り部さん、そして西組の方等多くの人の手助けを得ての事、この場を借りてお礼申し上げます。本当に有難うございました。



拭き漆作品の一部

* 梶谷道郎様は俳優の大竹まこと似の素敵な男性です。自分で作られた作品を、町並み保存資料館の建物の中で展示できたら最高にいいなと感じられ、作品展を開かせていただけないかと依頼に来られ実現いたしました。



8月末に旧小浜小学校跡地に蒔いたコスモスの種が、先月末から今月初旬にかけて花を咲かせました。少し背丈が低いので、囲われている柵越しに覗かないと分からなかったかもしれませんが、可愛らしく咲き誇り、西組の秋を彩ってくれました。

コスモスは原産地がメキシコということもあり、土地の状態や水の管理など手間のかからないガーデニング初心者向きの植物だそうです。「女性の会すまいる」の皆様の手をさほどわずらわせることなく、咲いてくれたかなと思っています。

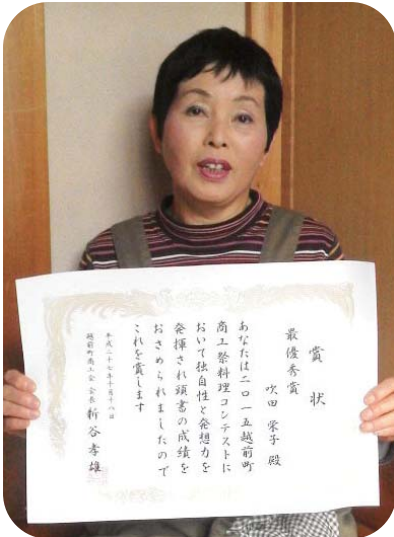
ところで、コスモスの花言葉をご存知でしょうか？「乙女の真心・愛情、調和」だそうです。秩序を重んじ、調和を保つことを好み、謙虚であることが多い日本人の気質を表す花言葉です。可憐な色と整った形、強い生命力は、まさに女性的な花であり、浅井三姉妹の次女お初を想像します。

コスモスには定番の白やピンク系だけでなく、赤・紫・オレンジ・茶色があります。贈り物としても喜ばれる花ですが、茶色だけは「恋の終わり、恋の思い出」という花言葉なので、男性の方は女性に贈る時に気をつけるといいですね。

満開に咲くコスモスが新たな小浜西組の名所になることを望んでいます。



吹田栄子さん 料理コンテスト最優秀賞受賞



大原区在住の吹田栄子さんが平成27年10月18日に行なわれた“2015 越前町商工祭 料理コンテスト”において、最優秀賞を受賞されことを知り、お話を伺ってきました。

「この料理コンテストは越前ガレイ（赤ガレイ）を使用することが条件で、“越前ガレイのチリ風”を作りました。レシピはエビチリのエビの代わりに唐揚げしたカレイの身をチリソースであえるというもの。値段も手ごろでカロリーも低く、家族の評判が良かったのと、制限時間が1時間と決められているので、いかに手際良く、おいしくできるかも加味してできたメニューです。

最初は気楽な気持ちで応募しましたが、一次の書類選考で10名の内に選ばれ、二次の調理審査でその5名に選ばれると、自然と1位になりたい…という欲がわいてきました。最終審査では審査の結果発表（最優秀賞1名、優秀賞1名、特別賞3名）と表彰式、試食会が行なわれました。そこで自分の名前が呼ばれた時は冷静を装っていましたが、内心“ヤッター”という気持ちでいっぱいでした」と話してくれました。

吹田さんは、このコンテストの第1回目から応募されており2年前には優秀賞を受賞。また他の料理コンテストでも入賞されたことがあるそうです。料理に合わせて器も探すとのこと。創作料理も大好きで、思いつくと食卓に出して、家族に感想を聞くのが楽しいそうです。「楽しいからまた次も応募します！」と意欲に溢れていました。ご家族はいろんな料理を食べることができて幸せだなと思い、ご主人に尋ねてみると「幸せです」（笑）とおっしゃっていました。



最優秀賞「越前ガレイのチリ風」

小浜西組町並み協議会からのお知らせ

■小浜町並み保存資料館休館のお知らせ

現在の資料館は平成27年10月19日（月）から閉館しています。
新資料館はお向かいの元鹿島会館になりますが、改修工事の為、
開館は翌年1月初旬となります。よろしくお願ひします。